



平成26年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【大野北地区】

平成27年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 大野北地区子ども・宇宙・夢プロジェクト	大野北地区子ども・宇宙・夢事業	平成26年冬に打ち上げが予定されている小惑星探査機「はやぶさ2」を製作・管制する、JAXA相模原キャンパスの玄関口である大野北地区であるが、まだまだ、JAXAとの連携や、地域の子もたちにJAXAや宇宙への関心を持ってもらう機会が多いとは言えず、宇宙を身近に感じることのできる企画が少ないのが現状である。この事業を通して、普段接することが少ない宇宙に関する体験を、子どもたちに身近な所で経験してもらうことができれば、より一層、JAXAや宇宙への興味や関心を持ってもらうことができるのではないかと考えた。	地域の青少年の夢と希望が膨らむようなイベントを、大野北地区自治会連合会と大野北青少年健全育成協議会がJAXA相模原キャンパスの協力を得て、子どもたちとその保護者に提供し、宇宙に対する夢を持ってもらうことを目的とする。	JAXAが共催しているライトダウンキャンペーンを、旧暦の七夕の日に合わせて8月2日の銀河まつり会場内で実施。宇宙や星に関連する音楽の演奏会と、JAXA相模原キャンパスの協力の下で、星空を見ながら宇宙や星の解説を聞いてもらい、子どもを対象に天体観測会を開催する。また、10月19日にJAXA相模原キャンパスの協力の下で、子どもを対象に太陽の黒点観測会と天文についてのパネル展示を大野北市民まつり会場で開催する。	7月1日	650,000	650,000	650,000
2 宇宙福豆で福よこい実行委員会	宇宙福豆で福よこい事業	大野北地区はJAXA相模原キャンパスへの最寄り駅がある環境から、さまざまな機会を通じてJAXAと連携した地域の事業が始まっている。一方、大野北地区では近年数多くの中高層マンションが建設され、地区内人口が約6万人となり、賑わいが増す反面、人と人との繋がりが希薄になりつつあるまちなちとなっている。そこで、国民の関心が高い「はやぶさ2」に関する事業と、伝統的行事の「豆まき」とを融合させた事業を通して、人と人とのつながりや交流の広がり、そして地域連帯の重要性への理解を深めたいとの思いでこのイベントを開催したいと感じた。	子どもたちに宇宙に対する関心と、郷土の施設がその中心的機関であることを知ってもらうことと、地域の産物を活用することで地域愛を育む。集合住宅での生活上の規制や家族形態の変化によって経験や継承がされなくなった「豆まき」の意味を知ってもらう。事業で時間と体験を共有することで、人と人との繋がりと地域の輪の広がりを図る。	「はやぶさ2」を宇宙に運んだH2Aロケットに見立てたビニール袋の中に、宇宙に行った「津久井大豆」を中に入れ、そのロケットを飛ばすことで、邪気を追い払い一年の無病息災をみんなで願う。また、それに先立ちJAXAの先生による宇宙の話や宇宙に因んだ楽曲のコンサートで、楽しく、そして子供たちの思い出として心にいつまでも残り続ける時間を作り上げていく。	1月26日	350,000	350,000	350,000
3 大野北地区交通安全母の会	大野北地区交通安全教育啓発事業	本市中央区(相模原警察署管内)の交通事故件数は前年度に対して増加傾向にあり、11月現在、人身事故件数県下ワースト2(1,013件)である。この発生件数の内訳で自転車が関係する事故発生件数の割合は33%であり、県全体での同割合が20%ということと比較すると、当区内での自転車事故発生件数は大変多く、このことに対する対策を講じることが喫緊の課題と感じている。また、中央区は自転車が関係する交通事故と並んで高齢者の交通事故件数も多く、共に交通事故指定地域となっている。このことから、当地区から自転車が関係する交通事故の防止や高齢者の交通事故の防止に係る啓発活動を継続して行っていく必要を感じている。	地域の住民が啓発活動を通じて、交通安全意識の高揚を図ることを目的とする。	幼児と高齢者には紙芝居による講話、中学生と一般参加者には自転車関係する交通事故を再現するスケアード・ストレイトを行う。	2月19日	390,000	390,000	390,000

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4 大野北地区コミュニティバス利用促進協議会	大野北地区コミュニティバス利用促進事業	平成26年2月の実証運行開始から本格運行に移行するためには、1便あたりの利用人員が10人以上であること等の条件があり、その条件をクリアするため、地域住民が率先して、利用促進のPRを行ない、気運を高めていかなければならないと感じた。	コミュニティバスの利用促進策を地域住民で考えるため、平成25年5月に利用促進協議会を発足し、交通不便地区における高齢者等の移動制約者の生活交通を確保するとともにコミュニティバスを継続運行させ、地域の活性化を図ることを目的とする。	地区内のイベント等の際にコミュニティバスの利用促進PR活動を行う。また、利用促進のPRをするためチラシのポスティング等を行なう。	3月16日	830,000	750,000	750,000
5 ふちのべはやぶさ寄席実行委員会	ふちのべ はやぶさ寄席	大野北地区はJAXA相模原キャンパスへの最寄り駅がある環境から、さまざまな機会を通じてJAXAと連携した地域の事業が始まっている。宇宙や「はやぶさ2」を題材とした寄席を通じて、これらのことを地域住民に「楽しく」「わかりやすい」形で造詣を深めてもらい、以って人とまちと宇宙をつなぐことを体現していくことが必要と考えた。	地域住民に宇宙に対する関心と、郷土の施設がその中心的機関であることを知ってもらう。地域に隣接している大学と地域住民との交流を深める。	桜美林大学落語研究部とJAXA相模原キャンパスとが協働して寄席を実施。 なお、実施にあたっては老人クラブに働きかける。 ・古典落語 ・「宇宙」や「はやぶさ2」に因んだオリジナルクイズ	3月6日	100,000	100,000	100,000
6 大野北地区自治会連合会特別キャンペーン実行委員会	大野北地区自治会活動活性化特別キャンペーン	自治会は地域住民の親睦や生活環境の維持、高齢者や子どもの安全対策に取り組み地域の諸団体や行政と連携して地域課題の解決を図り、安全で安心して暮らせる地域づくりをめざしている。しかしながら、自治会員の高齢化等により、役員の担い手不足による活動の低下や退会に至る事態が懸念される。 そこで、「自治会」というものに違う方向から光を当て、活動による自己充実感や役立ち感といった会員の内面の活性化を図り、自治会の維持力を高める必要がある。 また、そのような活動を自治会外に発信することによって自治会未加入者にその情報を届け、加入促進の一助となるように努める必要を感じた。	自治会退会促進を未然に防ぎ、地域の安全で安心して暮らせる地域づくりを維持する。 その過程において、加入促進に繋がる自治会活動のPRを行うなど、新規加入の促進を行う。	自治会活動情報リーフレットによる啓発 ・全戸配布 約30,000世帯(空き家等のポスティング約1割含む) ・事業等での配布 10,000部	3月6日	760,000	760,000	760,000
						3,080,000	3,000,000	3,000,000